

寺
こよみ

一月

一日 元旦会 一年の計は元旦
にあります。家族そろってお仏
だんにお礼をし、お寺のご本尊
にもお参りを。

四日 栗虫にて本山御助成会

七日 栗虫・報恩講

◇ 御正忌報恩講

十三日 午後二時より速夜

十四日 午後二時より速夜

十五日 午前十時より子供と青壮
年の集い。

十一時半 下村講

午後二時より速夜

午後七時より初夜

十六日 午前八時より晨朝

午前十一時半より

栃屋・熊野講

午後一時より満座

一八日 浦山・報恩講
三十一日

寺報 善 巧

発行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

一月十三日より十六日まで
御正忌報恩講
布教 白山若院



降り積もる雪の浦山に除夜の鐘が鳴り響く……

毎年、大晦日の除夜の鐘をつきに
来る御門徒の数が増えています。
百八ツの煩悩を、一つき一つきと
つき払って、清々しい気持ちでお正
月を迎えると云う、日本伝来の習
俗は、私達にとって、此の上なく
懐かしい行事です。

善巧寺の梵鐘は、昭和二十三年
に、再鑄造されました。若
い方は御存知ないと思いま
すが、戦争中、軍部の要請
で、日本中のお寺の梵鐘が、
集められ、溶かされ、兵器
に変えられました。その音
律で、人の心に平和をもた
らす筈の梵鐘が、戦争の道
具に変貌するとは、人々の
思いも及ばぬことです。併
し、当時の戦争一辺倒の日
本では、此の事の不条理を、
難詰する空気はありません
でした。

善巧寺の昔の梵鐘も同じ
運命に遭遇しました。何年
か、梵鐘の無い鐘楼堂が、私達の
目に、寂しくうつりました。

その梵鐘を、是非、新鑄しよう
と云う願いは善巧寺全門徒の胸の
内にたぎっていました。併し、何
分にも、多額の費用が必要です。
早速浄財集めが始まりました。あ
の鐘に彫刻されている天女は、佐

新らしき年を迎えて

々木大樹先生の心をこめた力作で
す。明教院の句も、有難く仰がれ
ます。

又、多額の寄進を頂いた方々の
芳名が、今でも、鐘の内側に彫ら
れています。

戦争によって奪われた善巧寺の
平和のシンボルは、斯うして、新
らしくよみがえりました。

そして、新らしい昭和五十
三年を迎えようとしていま
す。

善巧寺にも、新らしい風
が求められています。若い
力が、住職を守り立ててこ
そ善巧寺の未来は明るい展
望が見られます。

三法要に向って、今年も、
力強く歩を進めましょう。

除夜の鐘は、未来を告げ
る平和の鐘なのです。
此の原稿を書いている今
のところ、暖冬異変で、未
だ雪が降りません。善巧寺
の銀杏の葉がすっかり落ち、歳末
が近づく、気温も下がり、積雪
の時節を迎えることになります。

雪の中で、除夜の鐘が今年も響き
わたります。

山門のひらかれてあり除夜詣
住職 雪山 俊之
(宵火)

恩師靈潭師との出逢い



上市・新屋の明光寺

三女、それに与三吉、さらにもう三人の養子をかかえていたというから、かなりの大家族である。しかし、これは、ただ子供を養育するということではなくて、宗学を志すものを教育せずにはおれないという靈潭師のたいなる熱意があつての

空と筆と



明教院僧 銘伝

水橋村の農家に生まれた、渡辺与三吉（のちの明教院）は、幼な

じるほどだったという。その与三吉が、上市・新屋の明光寺住職 靈潭（れいたん）師と出逢つたのは、十一歳のときである。地方の碩学であつた靈潭師は与三吉を一見して、その才能を見抜き、宗学を学ばせたいものと親に相談し、すぐに養子として迎えて、剃髪し、自分の名を一字と

つて、靈觀と名付けたという。当時、靈潭師には実子が三男、

ことである。

明光寺の記録によれば、学間に実子、養子のへだてなしというこ

とで、男六人を年齢順にならべて教育したとある。ふ

つうならわが子だけはという気もするわけだが靈潭師の心は、そのよう

な小さなものではなかつたようだ。

靈觀と名を改めた与三吉は、



やさしいお顔の靈潭師

ある。ところで、明教院を育てた靈潭師とは、どのような方であつたかという

少し紹介してみよう。多くの偉人や名僧は、明教院へ

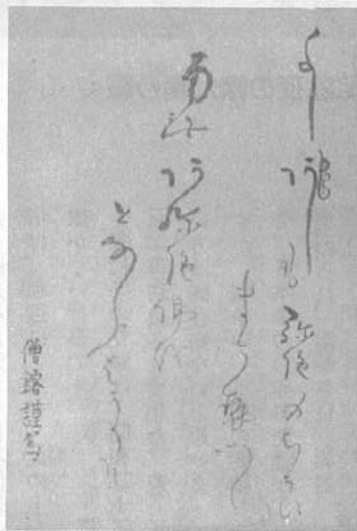
宗学に実子養子のへだてなく

へのごとく、幼少より非凡の器などといわれるのだが、靈潭師は全く逆であつた。師は幼名を威相と

学問を身につけた彼は、久しぶりに自坊に帰り、父に許しを乞うのだが「他宗の学問ばかりに身を

性質はさっぱりで、両親は心配し、「お前は寺をつぐ器でない」といわれる。これを聞いた彼は「よし」とばかり家を出る。

た京都へ逆もどり。ここで本願寺



明教院が筆記した恩師辞世の句

と聞く。おやじ答えて「松尾の大華嚴寺の鳳潭和尚。彼はすぐさま鳳潭の門をたたき、ここで六年、華嚴を修し、師の一字をいただきたい

の能化、智空師の門に入り、五年の歳月を祖師聖人一流の要義の修得に費やす。ここでようやく老父母は満足し、明光寺住職におさま

寺 ぎよみ

二月

一日 お講（当番 浦山）

二日 三市市・報恩講

三日 生地・報恩講

六日 お講（当番 下立）

十六日 音沢にて本山御助成会

十八日 下立・報恩講

寺報「善巧」の題字について。

この寺報の題字は、本山より出ている親鸞聖人の著された御和讃の釈迦弥陀は慈悲の父母

種々に善巧方便し

われらが無上の信心を

發起せしめたまひけり

という一首から、複写させていた

だいたものです。センケウはふり

がな、〇二つの印は濁点の意味で

読むときはやはり「ぜんぎよう」と読みます。

学はこの靈潭師のまわり道のおかげなのであろう。師の辞世の句は明教院が口述筆記したもので、つぎのようにうたわれてある。よしあしも弥陀の誓にまかせつつ南無阿弥陀仏となふばかりぞ

三法要まであと4年

三法要

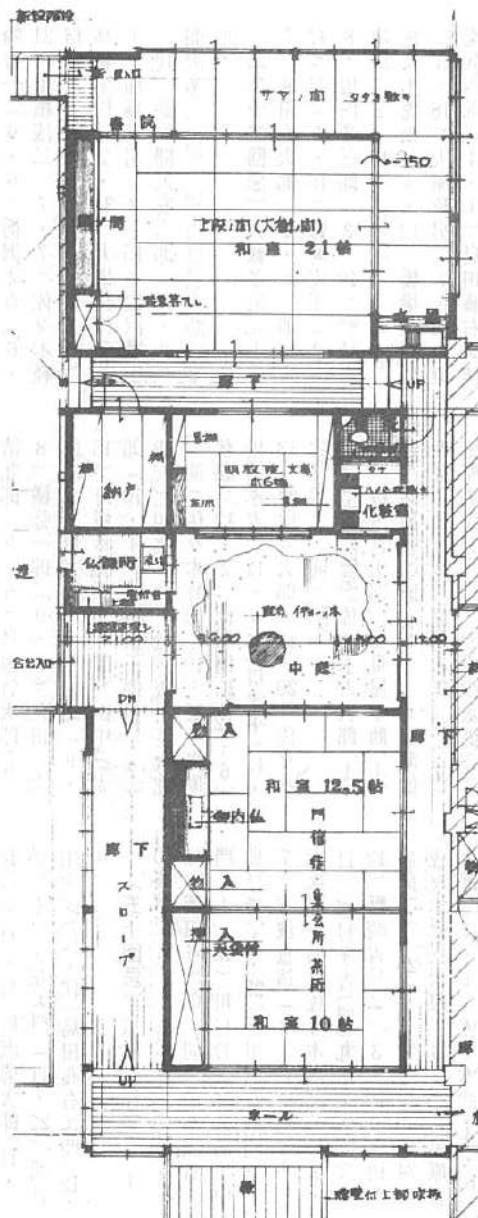
- ・宗祖 700回忌
- ・御誕生 800年
- ・明教院 200回忌

建設事業今春着工

三法要を四年後にひかえて、善巧寺は、この一年、教化活動をさらに充実し、建設事業においてもいよいよ今春から、本格的な工事にとりかかろうとしています。人間性の回復、真実なる生き方が問われている今日、門徒と寺との関係をより一層、密接なものにして、ふれ合いの輪を広げてゆくと同時に、寺を心のふるさととして、魅力あふれるものにしてまいりたいと思っています。三法要にむかつて躍進する善巧寺に、今年も心からのご支援をお送り下さい。



門信徒の茶所完成予想図
左側が本堂、右側が庫裡



三法要の建設事業計画は、理事会で決定された通り、まず昨年は雪害・老朽部分の修理が行われ、次に、いよいよ今春から、本格的な工事にとりかかります。

計画では完成予想図をご覧のように、本堂と庫裡の間に門信徒のふれあいの場「お茶所」が建設されます。この茶所は畳二二・五帖の広さで、二部屋とり、中にはお内仏を安置して、集会や法座などをひらけるようになっています。本堂に至る廊下は、お年寄のこと

広がるふれあいの場

を考えてスロープ式とし、それをのびりつめたところに「仏飯所」を設けます。この仏飯所は、仏さまへのお仏飯を盛る設備があるほか、寺参りにこられた門信徒の方が、花やらおそなえを置く場所にもなります。

そして、お茶所の奥に廊下つづきで、明教院二百回忌記念の「明教院文庫（書棚の六帖の間）」が設けられ、裏庭に面した所には二一帖さやの間つきの書院が建てられます。この完成により、寺での大法要はもちろん、門信徒の仏前結婚式も可能になり、全門徒の奥座敷としていつでも利用していただけることになるわけです。

この建設に関しては、正月早々に建設委員会が開かれ、業者の決定、工事の段取りなどについて検討されることになっていますが、

っており、今春はそれらの建設計画を、雪解けを待って一気に進めることになっています。

ところで、この事業の予算ですが、当初の計画通り、建設事業には二千万円をかけることになっており、現在の募財計画では、数百万円の不足ということになります。しかし、物価の上昇などを考え合わせ、工事は今年中という理事会の意向で、一時借入れてでも工事を進め、五十三年度の予算でこれを埋め合わせることにしています。

なお、予算に関連してひとことつけ加えておきますと、門徒の方からの募財は、昨年度のスタート時より、さらに協力体制が強まり、現在の報恩講廻りでは、昨年度を上廻るという状況で、これも門信徒の方々の三法要に対するご理解のたまものと、寺も総代も三法要事務所でもよろこんでおります。

善巧寺門徒年忌一覽

この一覽は、毎年正月に寺の本堂にはり出されるもので、お名前は、故人のもありますが、便宜上、戸主名をあげてありますので、そのお宅でどなたかの年忌があつていらっしゃるというようにお読み下さい。

〔一周忌〕大蔵宇之助(1・16)

大蔵義悦(2・7)佐々木藤一(3・16)

越後庄太郎(3・17)丸田稲夫(3・27)鬼原辰右エ門(5・3)

佐々木正雄(5・12)谷川正明(5・28)谷口浅五郎(6・13)

野村伊太郎(7・1)橋松次(7・3)們直次(7・19)谷口五郎左エ門(7・26)橋早次郎(7・28)

島田拾次(8・4)中村幸作(8・9)岡田助次郎(8・13)沢田康平(9・12)橋伊佐次郎(10・3)

浦沢益次郎(10・15)浦瀧善作(10・16)高松昭春(10・30)橋場豊次(11・7)高島彦丸(12・5)新保隆夫(12・12)東狐与四正(同・19)

〔三回忌〕宮崎俊夫(1・24)

加藤友司(1・30)佐々木甚之助(2・1)川瀬勇作(2・4)有馬和男(2・7)島田榮松(同)

佐々木隆一(2・18)佐々木二太(2・24)朝倉六松(3・19)谷川長作(3・24)們良造(3・25)

中村石次郎(4・14)大蔵久男(4・15)佐々木三作(4・30)佐々木才吉(5・8)本波貫一(5・16)

板川啓三(6・18)橋伊三(7・26)谷口源太郎(8・3)上坂利平(8・16)佐々木外一(8・18)

板沢菊次郎(10・1)佐藤宗吉(10・20)橋爪正義(11・9)川瀬勇作(11・28)丸田耕一(12・22)野田むら(12・25)佐々木隆一(同)

〔七回忌〕岡田要造(1・12)

中村良造(1・16)朝倉浅吉(2・13)山根作二(2・27)野村松義(4・3)谷口浅五郎(同)谷口重義(4・27)本波久次郎(4・

28)森岡重太郎(5・8)佐々木次盛(5・10)島田浅次郎(5・24)板嘉造(5・29)中村良造(6・16)板沢榮作(8・5)橋党次郎(8・15)藤沢吉五郎(8・16)

佐々木仁太一(同)寺崎巖(8・26)板川啓太郎(9・6)中村忠志(9・15)本波久次郎(10・10)

岡田長作(11・5)佐々木虎吉(11・11)新保才(11・30)川瀬八郎(12・21)

〔十三回忌〕大蔵巖(1・9)

佐々木七造(1・31)佐々木市太郎(2・16)佐々木文一(2・21)

清水久作(3・2)橋作二郎(3・15)佐々木九郎作(3・16)山本繁治(3・17)佐々木源造(4・10)

丸田元作(4・17)佐々木貞坊(4・19)西中勇一(5・1)佐々木貞義(5・6)福沢榮作(5・23)

朝倉浅吉(5・30)橋伊之助(6・4)佐々木鉄男(6・20)

島田博嗣(7・25)藤沢常次郎(8・27)中林三太郎(9・6)清水重作(9・7)根岸文左エ門(9・20)

川瀬義雄(同)大野茂八郎(10・10)大蔵助次郎(10・29)佐々木武(11・1)橋伊三(11・6)東狐正孝(11・24)川内由太(11・28)

〔十七回忌〕野村虎太(1・8)

開沢安次郎(1・20)本波喜太郎(2・27)福沢五郎左エ門(3・5)

河村宗八(3・7)河村孝吉(3・12)板倉作次郎(3・15)

新保浅次郎(3・24)本波光雄(3・26)大蔵森吉(5・18)川瀬孝吉(5・23)谷口榮次(5・27)野

崎吉一(6・6)板沢才吉(6・21)山根浅二(7・7)佐々木経信(7・24)橋場宇之(7・28)

高倉菊松(7・31)丸田孫作(8・1)加藤友司(8・15)福沢重松(10・28)開沢安次郎(12・8)

開沢泰久(12・16)川口巳之助(12・25)

〔二十三回忌〕大蔵冬造(1・7)

浦田安次郎(1・8)浦崎宇右エ門(1・15)野崎安平(2・8)

川内彦三郎(2・10)野崎吉次郎(2・16)沢木庄八(3・8)

佐々木虎松(3・12)橋場兵四郎(3・18)大浦政男(3・31)橋場兵四郎(4・1)島田藤右エ門(4・7)

井五三郎(6・2)橋場兵造(6・3)板倉由次郎(7・4)沢田康平(7・14)川内小左エ門(7・16)

上野与三吉(8・30)佐々木次郎(9・3)丸田清作(9・4)

高島彦右エ門(9・20)谷川彦平(9・22)藤沢善四郎(10・3)

川口竹次郎(10・4)川内繁松(同)板川啓三(10・9)佐々木市右エ門(10・11)野崎吉造(10・27)

板沢半七(10・31)鬼原忠右エ門(11・21)佐々木与助(11・22)

〔二十七回忌〕板沢半吉(1・4)

板沢榮次郎(2・16)佐々木八十八(2・19)川内小左エ門(3・7)

中村吉右エ門(3・19)川口清太郎(3・27)橋爪伊左エ門(4・1)板川榮作(4・12)橋本彦三郎(同)東狐仁六(4・25)佐々木次郎四郎(5・12)島田藤左エ門(5・14)沢田五十郎(5・22)板川良次郎(5・29)沢田幸右エ門(6・7)川内文次郎(7・1)川内榮次郎(7・23)川口藤次(8・11)有馬助次郎(8・21)佐々木清九郎(9・6)島田竹次郎(9・8)橋弥一郎(9・9)久田久次郎(9・11)佐々木竹次郎(9・16)舟屋幸助(9・27)田中三太郎(10・4)山根仁三郎(10・7)浦沢仁四郎(10・22)板川長次郎(同)佐々木竹松(10・29)鬼原秋義(12・2)板川仙松(12・6)橋場孝吉(12・9)沢田津平(12・13)浦山吉次郎(12・20)佐々木次郎兵五(同)

〔三十三回忌〕佐々木市次郎(1・8)板川良次郎(同)舟屋幸助(1・14)岡田岩次郎(2・1)浦瀧伝四郎(2・8)島德次郎(3・4)鬼原次作(3・6)朝倉由次郎(3・16)田村貞馬(3・23)野崎吉次郎(3・27)西中与四(3・28)

板沢才吉(4・9)川内文次郎(同)中村与四次郎(4・11)佐々木松次郎(4・12)橋爪仁三右エ門(同)橋場兵三郎(5・1)本波久右エ門(5・5)有馬作次郎(5・11)橋忠孝(5・16)板川榮作(5・18)橋場兵四郎(5・21)山本繁治(同)岩崎市右エ門(5・31)

川内与三(6・16)有馬助次郎(6・29)佐々木与三三郎(7・6)朝倉芳次郎(7・7)清水久一(7・11)福沢宇之次郎(7・14)森岡春男(7・18)鬼原清松(7・25)岩崎久次郎(同)橋爪仁三右エ門(7・29)佐々木三太郎(8・1)佐々木文次郎(8・17)野島又助(8・22)中坂政右エ門(8・26)

佐々木金三郎(同)野畑仙次郎(9・7)山本佐平(9・12)福沢竹三(9・16)佐々木貞治(9・20)川内七三郎(9・21)有馬伊三吉(9・25)板川啓太郎(10・10)佐々木浅次郎(10・13)岡田岩次郎(10・15)川内与作(10・18)佐々木次郎右エ門(10・25)板川

長次郎(11・11)板沢菊次郎(11・15)中村与左エ門(11・22)朝倉由次郎(12・16)島田藤右エ門(12・20)

〔五十回忌〕鬼原米作(1・4)

山本彦三郎(1・6)島田久作(1・12)岡田与次郎(同)山本浅右エ門(1・18)川口竹次郎(同)中島ひで(1・22)谷川六左エ門(2・7)本波金造(2・10)佐々木仁太次郎(同)佐々木次郎八(2・11)河村孝吉(同)丸田榮次郎(2・12)野崎吉兵五(3・10)久田久次郎(3・20)本波金造(3・24)

佐々木弥三三郎(3・25)鬼原吉次郎(4・1)佐々木武(4・10)丸田久助(4・11)佐々木竹五郎(4・17)川内文次郎(4・18)樫兵助(4・20)島田伊平(同)大野宗右エ門(5・2)野村五郎左エ門(5・6)沢田幸右エ門(5・11)丸田長次郎(6・6)藤沢清右エ門(6・9)浦瀧伝左エ門(6・24)長沢増右エ門(7・24)丸田由次郎(7・26)野村五郎右エ門(7・30)舟屋幸助(8・1)大浦已之次郎(8・10)佐々木平助(8・14)開沢佐右エ門(8・17)

佐々木又八(8・21)朝倉浅右エ門(8・24)大蔵武右エ門(8・26)野崎吉造(8・31)佐々木平助(9・1)板宗八(9・2)岩崎久次郎(9・7)佐々木新四郎(9・20)佐々木基平(9・25)

本波紋助(9・27)島田浅次郎(10・6)沢田五三郎(10・8)野島又四郎(10・12)清水伊三郎(10・28)福沢与吉(11・3)清水小三郎(11・8)板仁平(11・27)丸田喜右エ門(12・11)岡田良作(同)鬼原幸作(12・14)八木次郎兵五(12・20)

〔百回忌〕は明治十二年寂の方。

教化活動さらに充実

三月には太子会

三法要をお迎えする心の器をつくらうと、昨年一月からスタートした教化事業は、門信徒の方のあたにかいご協力のおかげで、着々とその歩を進めています。ことしはさらに新事業を加えて、お念仏の輪を広げてゆこうと思っています。ふるってお参加下さ



御正忌の太ろうそく

◇まず、この一月は宗門最大の行事である、「御正忌報恩講」が十三日から十六日までつとめられます。通称「おしつちやさま」で親しまれていますが、その十五日には、成人式の祝いもかねて、日曜学校のこどもと青壮年の集いを開きます。午前十時より、日曜学校のこどもたちによるおつとめと住職のお話、幻燈会などがあります。そして青壮年のみなさんには「歎異抄」のプレゼント。

◇三月の十一日には、ことしはじ

めての太子会がつとめられます。門信徒の建設関係に集まっていたら、聖徳太子のお徳をたたえるいわゆる「太子さま」を、寺で行うわけで、関係者の方にはのちほど案内状を出したいと思っていますが、何分多くの門信徒の方でどなたが建設関係の方かわからないこともあり、すので、二月末までに是非御一報下さい。会費は二千円位です。

◇三月末の春の本山参拝は例年通り。一月中には日程、コースなどをご案内します。

◇四月三十日の日曜日は、昨年好



昨年秋の聞法旅行

評だった「初まいり」を行います。チューリップの花御堂で、花まつりをかねた善巧寺の名物行事です。こどもの楽しいお祭りに、ご家族そろってお参り下さい。

◇七月は恒例の祠堂経。そして昨年からはじめた一泊聞法の集いを予定しています。寺の夜具が底をつくほどのおまいりをお待ちしています。

◇八月はこれまた善巧寺名物のこども盆踊り、数百個のチョウチンと、夢を語る会のおじさんたちの夜店がたのしみです。

◇十月は秋の聞法旅行です。こ

十一月二十五日 金曜日 快晴
今年はどうした風の吹き廻しか、門徒報恩講廻りに出掛けてから、殆んど雨に遭わない。十月、十一月と、好天続きである。こんな現象には、今迄、出交わした事が無いと、各地域の七十を越した元老が仰言っている。今日の廻りは、浦山新地区である。黒部川の対岸に在る部落だが、浦山の様な、街道沿いの集落と違って、点々と住居を構えている散居村である。自動車を通る両側は、数年前に、基盤整備が完成して、見はるかす檜田に、秋の日が燦々と照り映えて

気持がいい。黒部奥山から僧ヶ岳、鉦ヶ岳にかけて、既に、頂上は、白雪を冠っている。愛本、舟見を廻り、墓の木から、浦山新への道順である。草鞍脱ぎは、昔から、傳左エ門ときまつている。三十年の昔、黒部川の瀬の緩やかな所を選んで渡渉して来た経験の思い出す。濡れたものを脱いで、此の家で頂いた熱い番茶の味が懐かしい。



住職日記

今日は、合計十五戸を廻る予定。昼食は、兄の三十五日忌に当る日鉦勤務のサラリーマンの御宅である。考えて見ると、此の十五戸の内、私より年長の戸主は、二、三戸で、あとは、當農の傍ら、出稼ぎ、農協勤務、職人、其の他に従う青壮年層である。あちこちで、柿を御馳走になる。

庭作りの名人もいるし、酪農関係のベテランもいるし、又、役所勤

もいらっしやる。此処数年間、聖徳太子像を迎えて、屋固めの法事をなさった方が、半数を占めている。御年寄りには、孫と一緒に御留守番、若夫婦は毎日御仕事にお出掛けと云う家庭が大半を占めている。それでも、お仏壇は、美しく整理されてあり、飾られた菊の香も清しい。

ふるさとの 日和目度き
新田の 岩魚の池に
散る落葉
報恩講

寺
ごよみ

三月

しから、明教院さまをしののけの旅を計画しています。

◇十一月は報恩講、そしてことしは前住職の三十三回忌がつとめられます。

このように今年の行事も盛りだくさん。老若男女を問わず、月に一度は心のふるさとへどうぞー。

一日 お講(当番 浦山)
二日 栢屋、熊野・報恩講
三日 舟見・報恩講
四日 泊、入善・報恩講
十一日 太子会(聖徳太子の祥月命日である四月十一日を一カ月くりあげて、善巧寺の太子会をつとめます。なおこの日は三法要記念の建設事業の話し合いも行いますので、門信徒の方で、建設関係の仕事をしておられる方は、是非ご出席下さい)

十六日 お講(当番 栢沢)
十九日 三法要理事会
下旬 下三日講 本山御助成を善巧寺で行います。

◇春の本山参拝旅行も下旬にあります。スケジュールが決まり次第お知らせします。

「現在帖」に御協力を！

教化活動の資料に

お寺には過去帖というものがありません。門徒でなくなられた方の法名と名前、年月日などが記されていて、今回掲載しました年忌などは、この過去帖で調べるわけですね。ところで、お寺にはその過去帖だけでいいのではありません。いえそうではありせん。教化活動をするに充実させるためには、どうしても、寺と門徒の連絡を密にしなければなりません。

その寺では、年度の三法要を縁にして、門信徒の方々の「現在帖」を作成しようと考えています。門徒の方の家族構成、それにどんなお仕事をなさっているか、娘さんとはどこへおよめに行かれたか、むすこさんとはどこへ別家を建てられたか、お孫さんの誕生日はいつか、むかしの屋号は何か、などなどくわしく記されたカードがあれば例えは初まいるの案内や、お講や法座のおさそいなどに、この「現在帖」はとも役立っていただけます。用紙を寺報にそえてありますので、ぜひ、くわしくお書き込みの上、総代さんの所か、あるいは寺に直接お送り下さい。

ひとくお作法

法事あれこれ

人生の節目には、その意義をたしかにし、人間としての自覚を深めるため、宗教による儀式がもたれていきます。仏式の行事はただ形だけの儀礼でなく、深い教への裏づけにもついで、その人の一生を意義あるものにするよう計画されています。誕生から浄土までの法事あれこれを紹介しますと――

◇初参式 寺に初めてお参りしてうける式で、百日目から誕生までの間が適当。今年は四月三十日です。

◇誕生日、入学、卒業 家族そろって仏前に参りよろこびましょう。

◇結婚式 人生の新しい門出を仏前に誓いあいましょう。寺では今年の座敷建設が完成次第、いつでも仏式結婚ができます。

◇太子さま 建築の落成を祝ひ仏前にこれを報告して報恩感謝の式を行います。

◇年忌法要 あげ法事、自宅法事、ごねんきなどがあります。今回の寺報には、門徒の年忌を掲載しましたが、故人をしのび仏徳を讃嘆するために、華美に走らず、おろそかにならず、心ばかりの法要を忘れないようにしましょう。



おつとめの会 析屋にも

おつとめの練習会が、析屋にもうまれました。この会は野畑澄子さんのキモ入りで、昨春秋からスタートしたもので、メンバーは、善巧寺と称名寺門徒のご婦人たちが、昨年夏、寺で一泊聞法集のあったとき、下立愛本のおつとめ練習会が発表会をされ、そのときお参りに来ておられた野畑さんが声高らかにお正信偈をあげられる下立愛本の若い人たちの姿に感激

寺からお正月のプレゼントのお知らせをいたします。

◇年頭参りにこられた方には、例年通り「法語カレンダー」を、今年のカレンダーは「歎異抄」の中の親鸞聖人のおことばで、徳力富吉郎氏の美しい版画が、聖人ゆかりの比叡山や居多ヶ浜などの風景を描き出しています。

また、昨年よりはじめました宗教書のプレゼント、今年は五人の先生方の心あたたまる法話集を差し上げます。

◇御正忌の一月十五日には、昨年の通り、若い方たちに「歎異抄」

お年玉

の意訳本をプレゼントします。

◇このほか、親鸞聖人のご真筆のお座敷用の豪華カレンダー（三千円）も、申し込みによりおわけすることにしています。

◇また、読みやすい聖典や宗教関係の図書は、事務所の「しんらん文庫」にいつも用意してありますので、お気軽にご覧下さい。

◇寺報「善巧」を「はいい」や親戚の方にも読ませたいと思われる方は、住所とお名前をお知らせ下さい。寺から送らせていただきます。

して「ぜひ、わたしたちも」と、計画を進めておられたものです。はじめは二週に一度でも、というつもりでしたが、やはり始めると熱がこもり、いまでは毎週一回の練習を重ねています。講師は称名寺と善巧寺の若院が交代で出向いており、この調子だと、十五日の御正忌には、下立愛本のメンバーと合同で、お正信偈の大合唱ができそうとは切っています。

なお、寺ではこれからも地区の要望に答えて、各地区でこのおつとめ練習会をひらくことにしていますので、世話役の方、是非御一報下さい。そして、人数がそろわない、集まるのがむずかしいという地区で、せめて一人でもと思っておられる方には、寺からカセットテープの貸し出しをいたしますので、どなたでもご連絡下さい。すぐお届けします。

合 掌

新年のおよろこびを申しあげようと、辞書を引いていましたら、「よろこび」という字がなんと、八十四も並んでいてびっくりしました。その字の持つ意味はそれぞれ違うわけで、例えば、わたしたちがふだん使っている「喜」という字は「喜（たかつき）」に食べ物に乗っている姿からきていたもので、ちょうどお鏡を飾ったいまのようこびということになりました。また「賀正」などと申します。この賀は贈り物や祝辞をのべてよろこぶときに使うものであり「豫」とは人にものを与えることからくるよろこび。「欣」は口をあけて笑いよろこぶことだそうです。

そして忘れてならないのは「悦」の字で、これは心のわだかまりがとれたよろこびをあらわしています。煩惱具足のわたしたちは、なかなか心のわだかまりがとれないわけですが、ことしこそ、お念仏の道を聞きひらいて、晴ればれと心豊かに過ごされんことを、願ってやみません。

